

特許第3515935号

葉面
散布用

茶芽形成促進活性剤

お茶芽トツプ

天然有機による
茶芽形成促進活性剤

プロリン：ウラシル
最適比率混合剤

1LX10

茶芽とは…

茶芽（茶芽分化）
茶芽分化は生長点で行われる。
茶芽は、成長して新茶葉を形成し、そして新緑の茶に成長する。

成分分析例(%)

総アミノ酸	総核酸	チッソ	リン酸	カリ	その他
8	2	5	7	4	CaO、MgO、Fe ₂ O ₃ 微量

京都大学農芸化学教室に於いて、前国際応用生物研究所理事長
故小林達治農学博士の研究により生まれた

植物の有機栄養理論

植物(茶樹)は根から有機養分であるアミノ酸や核酸、ビタミン類、ホルモン、糖等を有機吸収利用することが確認された結果、これらの吸収作用が新茶の成長に役立つ事も証明された。更にアミノ酸のプロリンや核酸のウラシルは新芽形成と新緑茶成長になくてはならない養分として強力補給の効果は大きいことが解明された。



サン化研株式会社

本社 〒589-0023 大阪府大阪狭山市大野台4-26-8

TEL 072-366-2012 FAX 072-367-3533

営業所：関東・名古屋・西日本・九州事業部 www.sunkaken.co.jp

葉面
散布用

お茶芽トップ

1LX10

お茶芽トップ6つの特徴

- 1 アルギン酸にプロリンとウラシンを特異な方法、即ち、最適比率で混合アップしてつくられております。本液のPHは弱酸性です。
- 2 含有アルギン酸によってアミノ酸・核酸のバランスをよくしています。
- 3 使用の水は、水の分子を細かく砕いたものを使用しております。
- 4 土の中の有効微生物群を増やし健康な土を作ります。
- 5 塩類集積が少なく、濃度障害・塩害・ガス障害の心配がなく安心して使用できます。
- 6 発根、発芽、生育の良い健康な茶樹をつくり上げ、お茶葉品質は最高の香味・色艶の良いものが収穫出来ます。

お茶芽トップ含有成分内容

〔アミノ酸〕	プロリン	ロイシン	イソロイシン	アラニン	バリン	グリシン
	フェニールアラニン	グルタミン酸	シスチン	リジン		
	チロシン	メチオニン	アスパラギン酸	ヒスチジン		
	トリプトファン	スレオニン	セリン	アルギニン		
〔核酸塩基〕	ウラシル	アデニン	チミン	シトシン		

お茶芽トップ使用方法

施用期	施用方式	希釈倍数・方法	施用回数
幼苗期	散水	希釈率 300~500倍 慣行水量に合わせて施用	1回
栄養成長期	葉面散布	希釈率 500~1000倍 150~200 ℓ / 10a	1回
生殖成長期 (葉芽期)	散水	希釈率 300~500倍 慣行水量に合わせて施用	3回/月
	葉面散布	希釈率 500~1000倍 150~200 ℓ / 10a	4~5回/月
成熟期	散水	希釈率 300~500倍 慣行水量に合わせて施用	2~3回/月
	葉面散布	希釈率 500~1000倍 150~200 ℓ / 10a	2~3回/月